

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 878号 平成23年11月25日

□ 11月特別企画：飯能自然回廊の探索

「秋雨の中、飯能自然回廊を探索しました。」

- 実施日：平成23年11月19日(土)
- 参加者：瀬川・室井・鶴見・石原・高田・朝倉 計6名
- コース：飯能駅 10:00→あさひ山 11:00→龍崖山 13:30→八耳堂 14:00(昼食)→
吾妻峡 15:00→能仁寺→市街地/団子屋(休憩)→東・飯能駅 16:00(解散)

○序章：飯能美杉台と第2地区の間に「あさひ山公園」が今年春にオープンした。

今では遠く富士山、筑波山や東京スカイツリーまで展望できる公園として美杉台が一番の人気スポットになっている。背後(北側)には飯能らしい山が連なってハイキングコースも整備されているが、ハイカーはまだ少ない。昔「朝日山」や大河原「龍崖山」は地元で信仰的な山として祀られて初日の出には地元の方も登るなど往来もあったらしい。

- ・ 今回の企画は、造成中の大河原「龍崖山」と「あさひ山」を結ぶハイキングコースを作ろうと、当時担当課長だった室井さんの呼びかけで、住民である高田(現在地区担当)と朝倉が加わって下見調査などしながらの登山道探索の一日企画であった。

〈参考〉 <http://www.imaie.co.jp/column/2011/09/>

○雨のスタート

- ・ 数日前から降雨確率60%、当然中止の案内すべきを、幹事M、T両名の「多少の雨だったら決行だよね」の強い一声で、直前に「有志参加」に修正。
- ・ 予想どおりの強者6名が参加。朝10時飯能駅から雨ガッパを着込んでの行進である。逆ルートで初めに美杉台北側から登るハイキングコースまで市街地を抜ける。約30分で「あさひ山」に到着。小雨の中だが家族連れが数組登ってきた。(写真「あさひ山」→



○ヤブ切り・ケモノ道・道なき道の苦闘3時間

■エピソード1 (あさひ山～県道)

- ・ あさひ山からのハイキングコースを10分程度で外れ、龍崖山直線コース?県道タッチの尾根筋古道(すでに藪の中)をかき分けながら進む。先頭はナタ+カマ隊2名にナタ・ノコギリ隊2名が続き最後尾に目印テープ記録班2名。M氏は遠く御先祖開拓民の気分で北海道から持参したという古い錆びたナタでまさに開拓魂である。途中には古い祠が1か所あったが、測量の目印テープが残るだけの道なき道の藪の中である。さらに進んで県道タッチ直前の崖の途中には、子供なら入れそうな洞窟が数か所。自然にできたらしくシテ(紙垂)でも懸っていれば手を合わせたくなる神聖な場所?である。崖下の県道を車が通過するのが見える。県道を渡る。

■エピソード2 (県道～龍崖山)

- ・ まずは地下ダムの上に向かって急坂をよじ登り・さらに藪坂をよじ登ると、今度は尾根中腹の横シワを道だと思いつつ登る。今度は沢?に向かってヤブ中を下る。土砂止め用の蛇かごを渡ってヤブ坂を又崖を登る。尾根に出て急に造成中の大河原地区がモヤの中広がる。S氏の「尾瀬みたい・・・」でホットする。霧もやの中では造成水たまりもきれいな尾瀬沼に錯覚するくらいの静けさである。龍崖山の山頂は、ちょっとした平場(約300m)で大きな石碑が立っているが、草樹木に覆われ眺望は悪く、写真だけ撮って北側の集落に下ることにした。

○ 遅い昼食 (雨の重要文化財で)

- ・ 八耳堂(聖徳太子ゆかりの重要文化財)は唯一雨宿りでき、遅めの昼食。カップ面・Jビニおにぎり・瀬川コーヒ一等。M氏の道産子ナタは、錆びの少し取れて次回の切れ味が楽しみになった。

○ 帰路 (多峯主山と天覧山は登山口だけ通過)

- ・ 雨の吾妻峡(ドレミファ)を渡り、多峯主山登山口の横を通ってさらに天覧山登山口の能仁寺前を飯能駅までの帰路とする。飯能銀座通りの伊勢屋で団子2本味わって駅までひたすら歩く。すでに4時であった。(あざ記)

